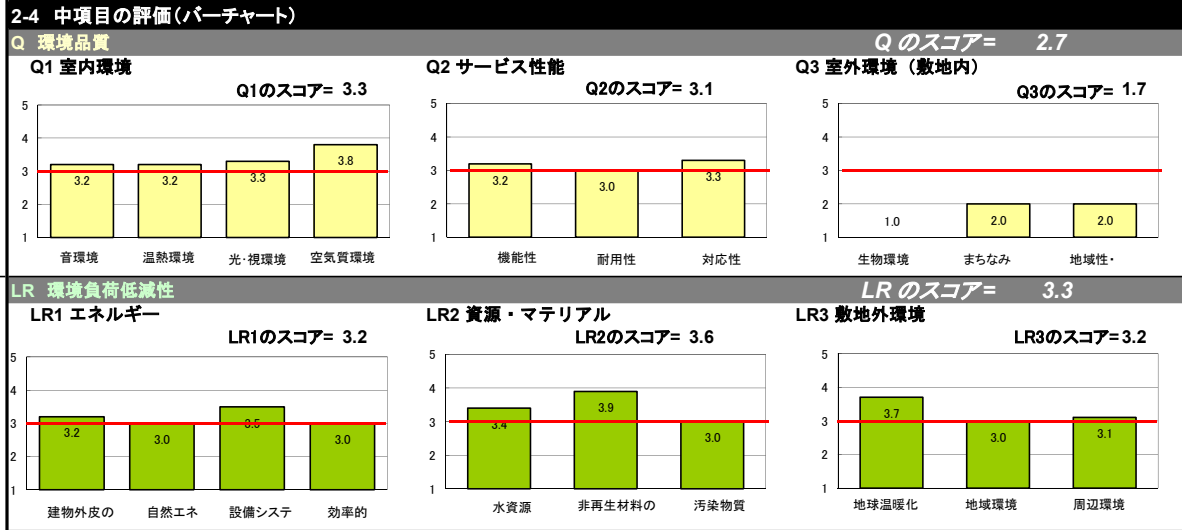
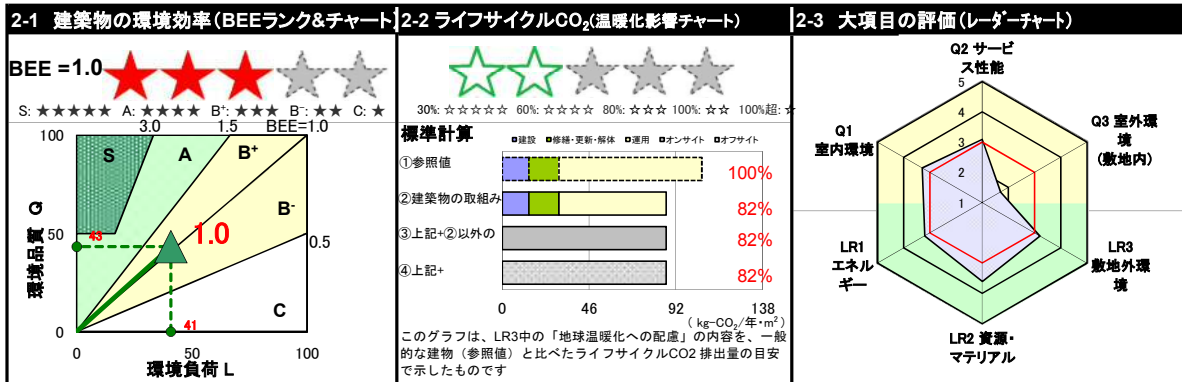


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	三菱電機株式会社 稲沢製作所	階数	地上6F
建設地	愛知県稲沢市菱町1番1の一部	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	78 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,900 時間/年
建物用途	事務所工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年7月 予定	評価の実施日	2017年10月2日
敷地面積	164,875 m <sup>2</sup>	作成者	大林組名古屋支店
建築面積	412 m <sup>2</sup>	確認日	2017年10月2日
延床面積	2,187 m <sup>2</sup>	確認者	大林組名古屋支店



### 3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.7</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">14.1 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.5</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>〈外装材に使用した地域性のある材料〉</p> <p>なし</p> <p>〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} - \text{附属物面積}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部全体・共用部除く・宿泊部 住居・宿泊部分						
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										2.7
<b>Q1 室内環境</b>										3.3
<b>1 音環境</b>										3.2
1.1 室内騒音レベル										3.2
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音				天井・ロックウール化粧吸音板、床:タイルカーペット		4.0	0.20			
<b>2 温熱環境</b>										3.2
2.1 室温制御										
1 室温										
2 外皮性能										
3 ソーン別制御性										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式				人検知による体感温度制御等を採用		1.0	0.20			
						5.0	0.30			
<b>3 光・視環境</b>										3.3
3.1 昼光利用										
1 昼光率				昼光率=2.39%		4.0	0.60			
2 方位別開口										
3 昼光利用設備										
3.2 グレア対策										
1 昼光制御				設計照度700lx		3.0	1.00			
3.3 照度										
3.4 照明制御										
						3.0	0.15			
						3.0	0.25			
<b>4 空気環境</b>										3.8
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質				F☆☆☆☆を全面的に採用		4.0	1.00			
4.2 換気										
1 換気量										
2 自然換気性能				自然換気有効開口面積が床面積の1/15以上		5.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮				外壁の給気口と排気口の離隔距離6m以上		4.0	0.33			
4.3 運用管理										
1 CO <sub>2</sub> の監視										
2 喫煙の制御										
						3.0	0.50			
						3.0	0.50			
<b>Q2 サービス性能</b>										3.1
<b>1 機能性</b>										3.2
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性										
2 高度情報通信設備対応										
3 バリアフリー計画				独自						
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観 (天井高)				天井高さ2.7m		4.0	0.33			
2 リフレッシュベース				1階に自販機コーナー設置		5.0	0.33			
3 内装計画						1.0	0.33			
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計				取組み①②④⑥⑧⑩を実施		3.5	0.30			
2 維持管理用機能の確保										
						4.0	0.50			
						3.0	0.50			
<b>2 耐用性・信頼性</b>										3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振										
1 耐震性(建物のこわれにくさ)										
2 免震・制震・制振性能										
2.2 部品・部材の耐用年数										
1 躯体材料の耐用年数				②						
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔										
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				給水管VLP、排水管VP、消火管SGP(白)		5.0	0.15			
6 主要設備機器の更新必要間隔										
						3.0	0.23			
2.4 信頼性										
1 空調・換気設備										
2 給排水・衛生設備										
3 電気設備										
4 機械・配管支持方法										
5 通信・情報設備										
						3.0	0.19			
						3.0	0.20			
						3.0	0.20			
						3.0	0.20			
						3.0	0.20			

<b>3 対応性・更新性</b>				3.3	0.29				3.3
<b>3.1 空間のゆとり</b>				4.0	0.31				
1 階高のゆとり			階高3.8m以上	4.0	0.60				
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率=0.26	4.0	0.40				
<b>3.2 荷重のゆとり</b>				3.0	0.31				
<b>3.3 設備の更新性</b>				3.0	0.38				
1 空調配管の更新性		②		3.0	0.17				
2 給排水管の更新性				3.0	0.17				
3 電気配線の更新性				3.0	0.11				
4 通信配線の更新性				3.0	0.11				
5 設備機器の更新性				3.0	0.22				
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22				
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.36				1.7
<b>1 生物環境の保全と創出</b>		独自③		1.0	0.30				1.0
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		独自④		2.0	0.40				2.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				2.0	0.30				2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50				
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50				
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>									3.3
<b>LR1 エネルギー</b>				-	0.40				3.2
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			BPI <sub>m</sub> =0.95	3.2	0.13				3.2
<b>2 自然エネルギー利用</b>				3.0	0.24				3.0
<b>3 設備システムの高効率化</b>			BEI <sub>m</sub> =0.75	3.5	0.37				3.5
<b>4 効率的運用</b>				3.0	0.25				3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00				
4.1 モニタリング				3.0	0.50				
4.2 運用管理体制				3.0	0.50				
集合住宅の評価				-	-				
4.1 モニタリング				-	-				
4.2 運用管理体制				-	-				
<b>LR2 資源・マテリアル</b>				-	0.30				3.6
<b>1 水資源保護</b>				3.4	0.15				3.4
1.1 節水			自動水栓、節水便器の採用	4.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60				
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67				
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33				
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>				3.9	0.63				3.9
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07				
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.21				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	ビニル床タイル、ロックウール化粧吸音板、断熱材	5.0	0.21				
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	OAフロア、LGS下地の採用	5.0	0.25				
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>				3.0	0.22				3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32				
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68				
1 消火剤				-	-				
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50				
3 冷媒				3.0	0.50				
<b>LR3 敷地外環境</b>				-	0.30				3.2
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		①	ライフサイクルCO2排出率 84%	3.7	0.33				3.7
<b>2 地域環境への配慮</b>				3.0	0.33				3.0
2.1 大気汚染防止			燃焼機器無し	5.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25				
1 雨水排水負荷低減		独自		-	-				
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.33				
3 交通負荷抑制		独自	敷地全体として駐車場、駐輪場を確保	5.0	0.33				
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.33				
<b>3 周辺環境への配慮</b>				3.1	0.33				3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40				
1 騒音		独自		3.0	1.00				
2 振動		独自		-	-				
3 悪臭				-	-				
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40				
1 風害の抑制				3.0	0.70				
2 砂塵の抑制				-	-				
3 日照障害の抑制				3.0	0.30				
3.3 光害の抑制				3.7	0.20				
1 屋外照明及び屋内照明のうらみに漏れる光への対策			広告物照明無し、光害ガイドラインに一部適合	4.0	0.70				
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30				

# 重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

三菱電機株式会社 稲沢製作所 (仮称)稲電据付実習棟建1

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.7</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.5</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.9	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.11	外構緑化:14.1%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

## ■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

### ①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

### ②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア=  $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$

### ④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 三菱電機株式会社 稲沢第

計画上の配慮事項	
総合	高効率設備、節水器具、リサイクル材を採用し、省エネルギー・省資源に取り組むとともに、維持管理、耐用性、更新性などのサービス性や室内環境にも配慮した計画としている。
Q1 室内環境	昼光による室内の明るさの確保、F☆☆☆☆建材の採用、館内全面禁煙等、室内環境に配慮した設計としている。
Q2 サービス性能	維持管理や設備配管の更新性に配慮した設計としている。
Q3 室外環境(敷地内)	空地の確保や燃焼機器不採用により、敷地内の温熱環境に配慮している。
LR1 エネルギー	LED照明、高効率空調等の省エネ性の高い設備機器を採用している。
LR2 資源・マテリアル	節水便器や自動水栓の採用、リサイクル建材の使用等、省資源に配慮している。
LR3 敷地外環境	燃焼機器不採用による大気汚染の防止、屋外照明の光害抑制に取り組んでいる。
その他	